

資料編

I 実態調査の結果と考察

1 調査の趣旨

小・中学校の通常の学級、特殊学級及び通級指導教室に在籍及び通級する学習上特別な配慮を要する子どもの指導上の実践的な課題を把握するとともに、その諸問題を明らかにし、学習上特別な配慮を要する子どもの指導方法の望ましい在り方を探る。

2 調査方法

(1) 調査対象（特殊教育課研究協力員 18 人の学校の教員）

学校	担当	人数
小学校	通常の学級、知的障害特殊学級、難聴・言語障害特殊学級、情緒障害特殊学級、通級指導教室	217人
中学校	通常の学級、知的障害特殊学級、情緒障害特殊学級	101人

(2) 実施時期 平成10年7月～8月

(3) 調査形式 質問紙法

3 調査結果の分析と考察

【小学校】

(1) 学習上特別な配慮を要する子どもについて

ア 学級にいますか。いるとすれば何人ですか。

学年	要する子 (人)	児童数 (人)	割合 (%)
1	58	1050	5.52
2	47	998	4.71
3	49	1021	4.80
4	40	1085	3.69
5	43	1157	3.72
6	40	1158	3.45
合計	277	6469	4.28

	要する子 (人)	児童数 (人)
特学等	61	82

イ 行動面、学習面における子どもの様子です。該当する項目にレ印を付けてください。

(行動面における子どもの様子)

(人)

① 一つのことに短い時間しか集中できない	167
② 周囲のちょっとしたことに気をとられやすい	154
③ 突発的な行動が多く見られる	60
④ 新しい場面や刺激の多い環境になると、どうしてよいか分からなくなる	109
⑤ 椅子に座ってられないでうろうろする	44
⑥ 教室から出てしまうことがある	24
⑦ 乱暴・攻撃的である	46
⑧ 変わった行動をする（具体的に書いてください）	32
⑨ グループ活動が苦手な孤立しやすい	121

(学習面における子どもの様子)

(人)

⑩ 聞こえていても、言葉の意味を理解することが困難	167
⑪ 自分の言いたいことを表現することが苦手	154
⑫ 鏡文字になったり、形の整った文字を書くことが苦手	60
⑬ 単語を正しく書けるが、文章の表記では文字を並べるだけで意味のある文章が書けない	109
⑭ 計算において2学年以上の遅れが見られる	44
⑮ 計算はできるが、図形の見取り図などを書くことが難しかったり、文章題で式を立てることができなかつたりする	24
⑯ ボール運動やなわとび・工作などで手・足・指の動きが不自然	46

ウ 行動面、学習面で困っていることがありましたら、具体的に書いてください。

(行動面) ※主なもののみ掲載

- ・教師の注意を引こうと、わざと近くにいる子に危害を加える。
- ・友達に突発的に手を出す。
- ・やりたくない時、奇声を発し出ようとする。
- ・関心がないものは出歩いたり、奇声を発したり、他の子の邪魔をするのでクラス全体が落ち着いて学習に取り組めない。
- ・自分勝手に、思い通りにならないとへそを曲げて何もやらなくなってしまう。
- ・ほめても怒ってもまったく行動がよくなり、どのように接してよいのか悩むことがある。

【特殊学級等】

- ・こだわり出すとそれがなかなかとれない。
- ・大勢の人が集まる集会の時など大声を出す。
- ・失禁が時々ある子が一人いる。ひどくはないのでできれば治したい。
- ・トイレは自分で、決めたところ以外ではしない。
- ・家でやるべきこと（体の清潔、服の洗濯、持ち物）が十分でないため、本人が周りの児童から受ける不利益（いじめなど）にどのように対処したらよいか。

(学習面) ※主なもののみ掲載

- ・勝手きままで、自分の気の向いた時に自分の好きな内容しかやろうとしないので、学力が身に付かない。
- ・その都度指示をしないと課題に取り掛からない。
- ・文章表現はできるが、人前で話すのが苦手。算数の理解が遅い。
- ・作文したり下絵を描くまでに時間がかかり、最後まで仕上げるのが困難。
- ・ひらがなが書けない、2桁の計算もできない、興味がなくなると自分勝手な行動をとる。
- ・算数が遅れていて、苦手なことが分かっているので教科書をわざと持ってこない。
- ・周りの児童と同じ活動をするまでに時間がかかり、そのままどんどん活動が遅れてしまう。

【特殊学級等】

- ・一人学習の苦手な子ども同士なので、担任がそばを離れると学習ができなかったり、しようとしなかったりする。一人一人に十分な支援ができない。
- ・Mについては、多弁の傾向にあり、作業中や学習中におつぷつ言っている。S、Mについては対人関係や社会性の点で問題があり、ルールを理解が悪く、途中で投げ出したり、課題に集中しないで自分勝手な行動を取りがちである。
- ・体の調子により眠ってしまう。眠気を催すと学習意欲が全くなくなる。
- ・教材教具が古かったり（予算上なかなかそろわない）する。

*考察

学習上特別な配慮を要する子どもの有無については、(1)のAのとおりである。回答した先生方の担当学年別にみると、1、2、3年が4、5、6年より多かった。これは、一人一人の発達段階に違いがあり、行動面や学習面の取り組みに援助の度合いが多い学年ということで割合が高かったと考えられる。行動の様子については、集中力、注意散漫、集団活動、場面環境の順となっている。これは子どもの表面に出ている行動面での問題の順で回答があったと考える。学習の様子については、理解、表現、表記の順となっている。行動面、学習面で困っていることについては、様々な回答があり、これらも含めて学習上特別な配慮を要する子どもと回答したと考える

(2) 特別な援助や配慮について

ア 担任としてどのような援助や配慮をしていますか。

(人)

① 学習環境を整える。	40
② 成就感をもたせる。	89
③ 自信をもたせる。	82
④ 見通しをもたせる。	15
⑤ 自律性を高める。	23
⑥ 援助の仕方を工夫する。	129
⑦ ほかの児童に対して理解を促す。	36
⑧ 家庭と協力する。	77

イ 具体的な援助や工夫点を書いてください。 ※主なもののみ掲載

- ・言葉かけを個別に多くする等ふれ合いの機会を増やす。
- ・活動の流れを一つ一つ分かるように指示する。
- ・個別に遅れているところに戻って指導にあたる。
- ・チームティーチング等指導形態を工夫して集団生活にスムーズに入れるようにしている。
- ・目標を小さく設定し、それを達成したらほめる。
- ・自分でできることはどんどんやらせる。出来ない時は援助してやる。
- ・得意分野での活動を意図的に増やし、意欲をもたせる。
- ・突発的な行動が見られた時は、まず言い分を聞き、気分を少しでも落ち着かせる。
- ・本人は気付かず行動していることが、他の児童にとってあまりよい気持ちがないこともあるので、折りに触れて本人にも話すが、他の児童にもその子のよいところを話して聞かせるようにしている。

- ・他の児童に対して理解を促すようにしている。
- ・クラスでの存在感が生まれるようにしている。
- ・できることから取り組ませ、ストレスがたまらないようにしている。
- ・特殊学級との連携。他の特殊学級担当者との連携。

【特殊学級等】

- ・一人一人の実態を知り、その実態に合った課題を与え、自信をもたせ、次へのステップとなるような指導に心がけている。(特に教科指導において)
- 生活面においては、目標を立てさせ、到達できたら賞状をあげるなど意欲をもたせるように工夫している。
- ・意欲…○をつける、声かけ。
- ・苦手意識が強いので、どうしても援助が必要な教科の勉強の時は、情緒学級で勉強し、自信をもたせるようにした。「苦手なものだ」と思いこんでいるものをやってみたら、「大丈夫だね、簡単だね。」と思うように励ましてあげるようにしてきた。
- ・スモールステップ。興味関心のあることや意欲的に取り組める内容を扱う。できるだけ具体物を使用する。楽しい学習になるようにする。
- ・どうするとできることが増えるのか、それぞれの子どもの学習方法を知り、こうするとできるということ子どもと共に知っていく。自分でできることを見つけ、意欲をもって取り組めるように援助している。その子に合った学習の仕方「～するとできるね」を見つけて援助している。
- ・その子に合った教材(内容等)を使用する。
- ・実態にあった教材教具を使用する。
- ・個別に計画を立て、その子のレベルに合った学習を行い、成就感を持たせるように工夫している。できたらその子に合ったほめ方を工夫し、次の学習につなげるようにしている。
- ・他の特担の先生方とも連携し、意見を聞いて行うようにしている。
- ・個別指導計画を作成し、指導にあたる。
- ・個別指導の実施…その子が理解している学習内容から指導を行う。ゲーム的な要素も時には取り入れ、飽きずに取り組めるようにしている。
- ・その子の能力、進み方に合わせて学習を行っている。
- ・一人一人の実態に合わせて指導している。
- ・個別指導の時間を多く取り、言語理解を促す学習に力を入れている。家庭で、母親と子どもの関係がうまくいっていないので、漠然とした話ではなく、具体的な方法をアドバイスするように心がけている。また、母親がいつでも相談できるよう小さなことでもすぐ電話をかけるように勧め、こまめに連絡をとっている。
- ・連絡ノートを用いて毎日連絡を取り合う。
- ・母親に学校での様子を話し、理解を得られるようにする。
- ・家庭、医療機関と連絡を取り合い、薬の服用調節をする。
- ・交流の補助をする。
- ・TT等、指導形態を工夫して、集団生活にスムーズに入れるよう援助している。
- ・通常の学級での時間は、TTで個別指導を行う。
- ・担当教師間のチームワーク、TTを行う。
- ・作業の手がかりとなる簡単な表やプリントなどを用意する。
- ・1時間の学習の見通しをもたせる。
- ・これだけがんばろうという目的をもたせる。
- ・活動する場面を作り、1時間の学習に変化を持たせるようにする。
- ・友達が大好きで、友達の言うことはよく聞き、何でもよく活動するので、グループ活動を多くさせる。
- ・児童の話をよく聞いて理解に努める。
- ・本人の話をよく聞き、他の児童に引け目を感じないように配慮する。簡単なことでも毎日続けることは苦手なことを克服するためにも大切であることを実践して理解させる。
- ・学校でも衣服の汚れが目立つときには本人と共に洗濯をして、身ぎれいにする。
- ・失禁した場合、着替えや後始末を少しずつ自分できるように援助している。
- ・よくできたことを多くの児童にも分かるようにほめる。

ウ 校内で共通理解を図るために話し合いをもったことがありますか。

○はい 165人(76%)

(ア) どこで

- | | | |
|---------------------------------|------------------------------|---|
| ・校内研修
職員会議(校務会)
生徒指導事例研修会 | ・学年会
・生徒指導部員会
・就学指導委員会 | ・協力学級との連絡会
通級指導教室担当者
と
チーム・ティーチングで |
|---------------------------------|------------------------------|---|

(イ) どんな内容で

- ・気になる子の共通理解、配慮を要する児童・配慮の仕方、その子にあった支援の手だて
- ・行動様式の分析、指導法、援助法
- ・LDについて

- ・ティームティーチングの活用
 - ・指導方針
 - ・学習面、生活面
- エ 特殊学級や通級指導教室等に相談したことがありますか。

○はい 72人(33.2%)

(ア) どこに

- ・特殊学級、通級指導教室
- ・町内の学校、教育相談指導室

(イ) どんな相談内容で

- ・配慮の仕方、指導の仕方、個別に行う指導内容、指導について
- ・学力・行動、不適応行動への対応

オ 関係機関に相談したことがありますか。

○はい 18人(8.3%)

- ・大学、病院、福祉事務所、教育センター、福祉医療センター、養護学校
- ・学習障害児等相談事業、巡回相談
- ・民生委員、カウンセラー

***考察**

どのような援助や配慮をしていますかについては、(2)のアのとおり、援助の仕方を工夫する、成就感をもたせる、自信をもたせる、家庭と協力するの順になっている。一人一人に合った援助の仕方を工夫し対応しているものと考えられる。さらに、家庭と学校が連携を図り、対応していることが分かった。また、成し遂げることや自信をもたせることも試みられている。具体的な援助や工夫点の記述の中からも同じような結果が見られた。

校内で共通理解を図るための話し合いの有無については、ウのとおりもっているが7割を超していることから、多くの先生方は学習上特別な配慮を要する子どもについての情報交換や共通理解を図り指導に当たっていると考えられる。

反面、無いも24%あり、情報交換や共通理解を図ることなく担任一人が対応に悩みながら指導に当たっているものと思われる。

特殊学級等への相談の有無については、エのとおり、無いが約67%となっている。このことから学級の指導に精一杯なのか遠慮しているのか、もしくはお互いの仕事の忙しさから、十分に話し合いの時間が取れないことも考えられる。

関係機関への相談についても、オのとおり、無いが9割を超えている。このことから学校や担任が独自に学習上特別な配慮を要する子どもについて悩みながら対応しているのか、相談機関からの教育相談等についての啓発が十分でないとも考えられる。

(3) 学習上特別な配慮を要する子どもの理解や対応で知りたいことを書いてください。

○どんな子にどのように対応してきたか、実践例があればぜひ参考にしたい。

- ・パターン別の対応例…数多く教えてほしい。

・援助・支援の仕方

どんな学習上のアドバイスが有効か

学習の遅れで気になる子への対応

学習が著しく遅れている子を全体の中でどう指導するか

子どもが楽しく取り組める内容や指導法

興味を持続するための指導の工夫(教具、資料、ゲーム化等)

周りの子の理解が大切なので、どんなふうに話をもって周りの子の理解を得るのか

○問題行動について冷静に対処できない時がある。なぜあのような行動をするのか。その行動に対してどのように援助すべきかも分からない。

- ・LDや多動障害等についての最近の知見、LDの見方、対応の仕方

・ADHDへの対応

・特殊学級や保護者との連携

【特殊学級等】

○子どもが楽しく取り組める内容や指導法など

特殊学級向けの学習課題や内容

学習意欲を高めるための学習指導の工夫について(生活単元学習の在り方)

ひらがなの読み方や数の学習のための段階的指導の在り方

興味を持続させるための指導の工夫(教具、資料、ゲーム化など)

○子どもの現状がどういう背景にあり、どういう認知スタイルだと基礎基本の定着に結びつくのか。一人の子どもを理解することも難しい中、7~8人の個に応じることの困難さと時間のなさがある。認知心理学をもつての指導の在り方、対応を知りたい。心理検査等の結果からその子に合った指導法が考えられる専門機関等の流れができると思う。

○特殊学級として、学年差、能力差の大きい子どもたちと同じ時間の中でどのように指導したらよいか。

○LDや多動障害等についての最近の知見。

○小学校のうちには情緒学級で対応できるが、中学校に進学すると情緒学級がないので、ぜひ中学校にも情緒学級を設置してほしい。

*考察

学習上特別な配慮を要する子どもについての理解や対応、要望の自由記述からも、学習上特別な配慮を要する子どもとは、具体的な指導法は、事例を多く知りたいといったことがあげられた。

【中学校】

- (1) 学習上特別な配慮を要する子どもについて
ア 学級にいますか。いるとすれば何人ですか。

学年	要する子	生徒数	割合	(人)	(%)	(人)
1	31	898	3.45			
2	29	967	3.00			
3	34	1020	3.33			
合計	94	2885	3.25			

	要する子	生徒数
特学	11	22

- イ 行動面における子どもの様子です。該当する項目にレ印を付けてください。
(行動面における子どもの様子)

① 一つのことに短い時間しか集中しない。	64
② 周囲のちょっとしたことに気をとられやすい。	41
③ 突発的な行動が多く見られる。	15
④ 新しい場面や刺激の多い環境になると、どうしてよいか分からなくなる。	25
⑤ 椅子に座っていられないでうろろする。	6
⑥ 教室から出ていってしまうことがある。	14
⑦ 乱暴・攻撃的である。	10
⑧ 変わった行動をする。(具体的に書いてください)	9
⑨ グループ活動が苦手な孤立しやすい。	49

- ウ 校内(全体あるいは学年等)で共通理解を図るために、話し合いをもったことがありますか
○はい 58人(57.4%)

(ア) どこで

- ・校内研修、職員研修、全体研修
- ・生徒理解研修、事例研究、生徒指導協議会、就学指導委員会
- ・校務会、職員会議、学年会

(イ) どんな内容で

- ・学習・行動面で配慮を要する生徒について
- ・援助の方法、個別の支援
- ・生活の様子の報告、指導、支援の方法
- ・問題行動がある生徒についての共通理解と対策
- ・生徒指導上気になる生徒について
- ・授業態度や身だしなみ
- ・長欠対策

- エ 特殊学級に相談したことがありますか。

○はい 14人(13.9%)

(ア) どんな内容で

- ・生徒の接し方、対応の仕方
- ・指導の仕方、通級・入級指導について
- ・不登校生徒の対応について
- ・摂食障害児の指導について

- オ 関係機関に相談したことがありますか。

○はい 10人(9.9%)

- ・県の教育相談を受けた
- ・研修センター相談員
- ・児童相談所
- ・市家庭相談員
- ・フリースクール

- カ 行動面で困っていることを具体的に書いてください。

- ・不満なことがあると泣き叫び、気分が治まるのに時間がかかる。
- ・授業時に教室から出てしまうことがある。
- ・乱暴、攻撃的である。行動があった場合の対応に苦慮する。
- ・異性に触りたがる。
- ・基本的な生活習慣が身に付いておらず、遅刻や忘れ物等が大変多い。
- ・学校以外での非行が目立つようになった。
- ・服装、髪型の乱れ、喫煙
- ・朝起きられず、登校時間が遅い。(迎えに行かないと登校しない)

【特殊学級等】

- ・自分の思い通りにならないとパニックを起こすことがある。
- ・関心のある女性に電話したり、家のあたりをうろうろする。
- ・肢体不自由、水頭症の障害があるため、行動面での規制がある生徒がいる。集団の中での援助の方法として（生徒、教師の）目の届かない所が出てくる。

*** 考察**

学習上特別な配慮を要する子どもの有無については、(1)のAのとおりである。
 生徒の行動の様子については、イのとおり、集中力、集団活動、注意散漫、場面環境の順となっている。これは、生徒の表面に出ている行動面での問題の順で、小学校と同じような結果になっている。
 校内で共通理解を図るための話し合いの有無については、ウのとおり、もっているが約6割である。ただ、ウの(ア)、(イ)及びカから分かるが、学習上特別な配慮を要する子どもについて、不登校の子ども等も含めて幅広くとらえていることがうかがえる。
 関係機関への相談については、オのとおり、無いが9割を超えている。このことから、担任等が悩みながら対応しているのか、相談機関からの教育相談等についての啓発が十分でないとも考えられる。

(2) 特別な援助や配慮について

ア 教科担任として指導上どのような援助や配慮をしていますか。

(人)

① 学習環境を整える。	28
② 達成感をもたせる。	67
③ 自信をもたせる。	49
④ 見通しをもたせる。	21
⑤ 自律性を高める。	16
⑥ 援助の仕方を工夫する。	88
⑦ ほかに生徒に対して理解を促す。	28
⑧ 家庭と協力する。	20

イ 教科担任として指導する際の具体的な援助や工夫点を書いてください。(主なもののみ掲載)

- ・個別指導（場面によっては別課題）、マンツーマンとなる機会をつくる、1対1のかかわりを大切にした指導。
- ・1時間ごとにこれだけ頑張ってみようという目標を本人と一緒に決め、できるだけ声をかけながら学習活動を進めていく。
- ・できないことは手助けし、助言しながら生徒の手でやり通させる。
- ・援助の中で、言葉のかけ方をその子の状況に合わせてかけるようにしている。
- ・よい面をできるだけほめるようにしている。
- ・分かる問題に対しては指名してやらせ、自信をもたせたりしている。
- ・担任との連絡を密にする。
- ・担任、保護者との連携。
- ・数多くの問題をやるのではなく、基礎的な問題をじっくりと取り組ませる。
- ・問題解決の際、ヒントカードを与えている。
- ・TTで分担して個別に指導している。
- ・できることだけでもやらせるようにし、達成感をもたせる。
- ・調べ学習の際に、資料の読み取り方や特色等をポイントを押さえて説明し、一緒に活動し、達成感をもたせる。
- ・パソコンワープロの操作から国語等の学習に結びつけていく。生き物の好きな生徒には教室で昆虫を飼育させながら理科の学習につなげていく。
- ・ギターのコードを覚えるのに、ギターに色別シールを貼ってそこを押さえればそのコードができるようにしている。

【特殊学級等】

- ・生徒の興味関心のあるところから指導のきっかけを作っていく。
オセロ、トランプ…ルールや人間関係
パソコン、ワープロの操作…国語などの学習へ
教室で昆虫の飼育（生き物が好きな生徒）…理科の学習へ
- ・個の能力に応じた課題の設定
- ・できること、できないことを明らかにして、できることから一つ一つ取り組ませる。
- ・表現の得意な生徒にはその場を取り入れるよう、そこから他へ広がったかかわりができるようにして援助の工夫をしている。

- ・自己決定できるよう活動の選択ができるよう学習の環境を整える。
 - ・励ましや声かけを行い、集中できる時間、達成感を高められるようにする。
 - ・生徒の実態を他の生徒にも話し、理解と共に困難な場面では協力を求める。
- ウ 教科指導面で困っていることや悩んでいることを書いてください。
- ・個別指導の時間がとれない。
 - ・放課後にも十分時間が取れない。
 - ・小学校で学習した割り算や引き算等基礎的な計算のつまずきに対して、授業内外で支援してやれる時間がなかなかつけれないでいる。
 - ・配慮を要する生徒に合った教材開発の時間がない。
 - ・週に1, 2回だけしか接することができないので、継続した指導が難しい。
 - ・学習内容が難しく、量も多く進むペースも速いので、面倒を見てあげられない。
 - ・到達可能な目標の設定ができない。
 - ・少しの時間でも集中できるよう工夫した課題をどのように設定するか。基礎学力が定着していないので、授業中もほとんど消極的な子供をどうするか。
 - ・どうしたらやる気をもたせられるか。
 - ・興味関心を持続させていくことが難しい。
 - ・すぐ気が散ってしまう子に対して引き付ける授業展開ができていないこと。
 - ・やる気が長続きしないので、いろいろ形態を変えてやらせているが困難である。
 - ・正の数負の数の加減、掛け算九九や2桁-2桁の減法ができない生徒に、その授業の中でいかに参加させ、達成感をもたせるか。
 - ・励まし、自信をもたせるべく長所を取り上げ指導しているが、その場限りのもので持続性がない。毎時間始めからやり直しの状態が抜けきらない。
 - ・個人にかかりきりになると他に影響が出てきてしまう。
 - ・学校生活全部において他の生徒の理解が必要であるが、まだそこまでいっていないこと。
 - ・グループ学習の場面でどうしても浮いてしまう。他の生徒の理解や配慮がないと活動が難しい。
 - ・授業中パニック状態になり、話を落ち着いて聞けないことがある。
 - ・突然奇声を発したり、ちょっとしたことで気分を害してしまうことがあるため、その時の対処の仕方はどうしたらよいか。
- 【特殊学級】
- ・教科書による教科指導がほとんどできないため、生徒の興味関心をいかに引き出し、指導に生かしていたらよいかいつも考えている。
 - ・飽きずに集中して取り組めるように試行錯誤しているが、なかなかうまくいかないときもある。
 - ・学習の定着が図れるような取り組みを持続させること。
 - ・学習到達目標が高く、できなかったことができて喜びがない。
 - ・内容が難しくなるにつれ、または集団の人数が多い中では、配慮を必要としている生徒に接してあげられる時間の確保が難しくなっている。

* 考察

どのような援助や配慮をしていますかについては、(2)のAのとおり、援助の仕方を工夫する、達成感をもたせる、自信をもたせるという順になっている。これも小学校の結果と同じようになっている。ただ、家庭と協力することがあがってこなかった。これは教科担任としての回答であったのでやむを得ないと思われる。

さらに、教科担任としての具体的な援助や工夫点についての自由記述の中からも、個別指導、よい面をできるだけほめる、自信をもたせる等の順になっており、同じような結果であった。具体的に様々な働き掛けが記述されていたが、一人一人に応じた働き掛けをして対応しているものと考えられる。このことから、教科担任によっては個々の生徒の様子から判断してその生徒に合った援助の仕方を工夫しながら対応しているものと考えられる。

しかし、教科指導面で困っていることや悩んでいることに対する自由記述から、多くの教科担任が悩みながら独自に学習上特別な配慮を要する子どもの指導に当たっていること、具体的な指導法について及び実践事例を知りたいこと等がうかがえた。